

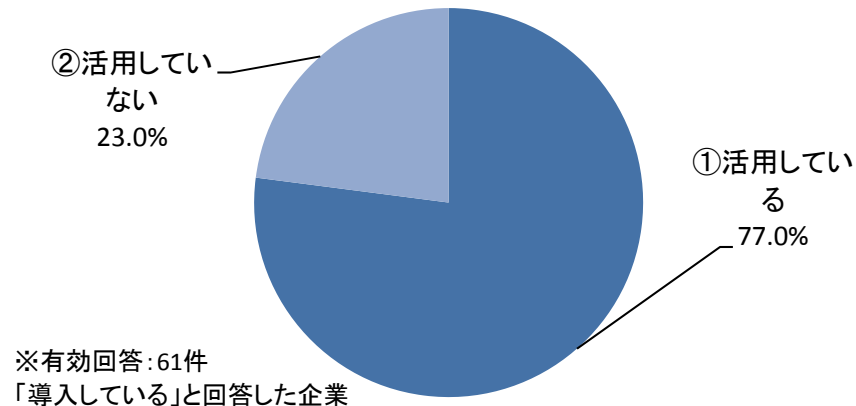
平成26年度 中小企業における
会計の実態調査について
(中小会計要領の経営への活用状況)

平成27年3月
中小企業庁

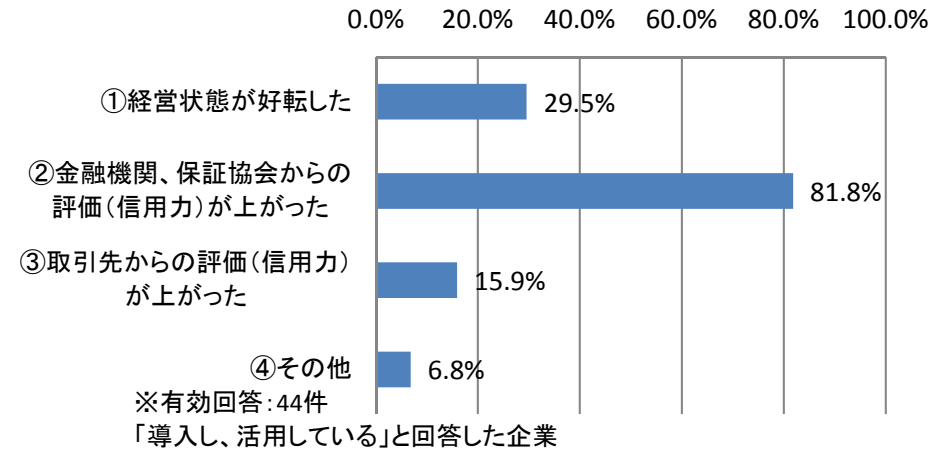
中小企業からの回答(中小会計要領の活用状況)

- 導入先の8割弱は、金融機関への信用情報開示や利益重視の経営等に活用している。
- 決算書の効果は、金融機関からの評価の向上、経営状態の好転等があげられている。
- 他方、導入しない理由は、メリットがない、ルール変更を行う必要がない、会計専門家から進められていない等。

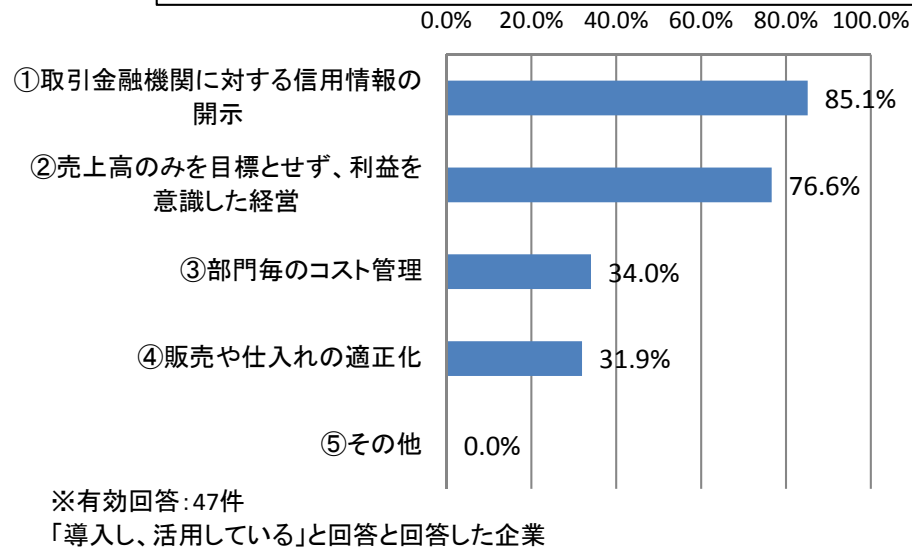
中小会計要領の活用の有無



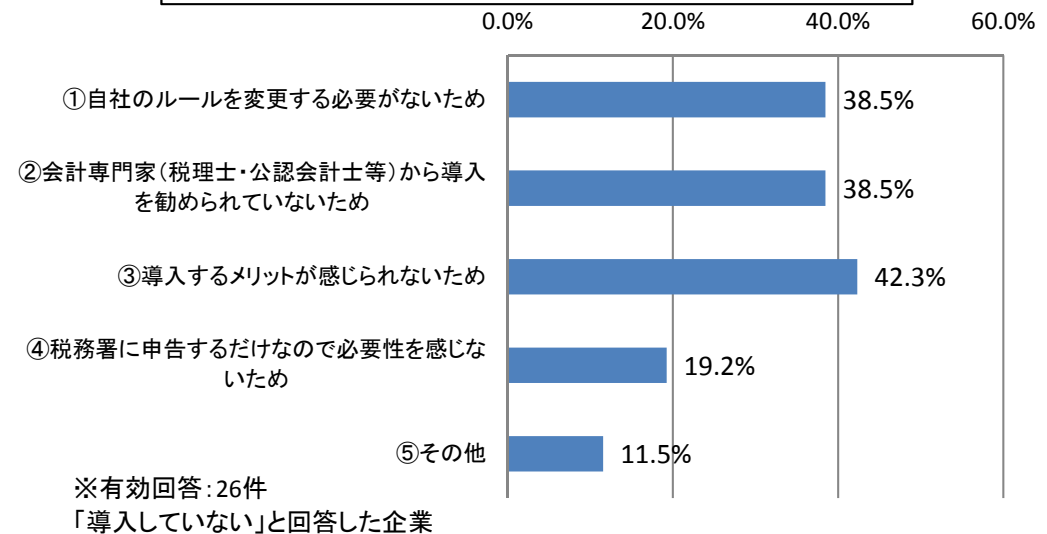
中小会計要領に基づく決算書の効果(複数回答)



活用例(複数回答)



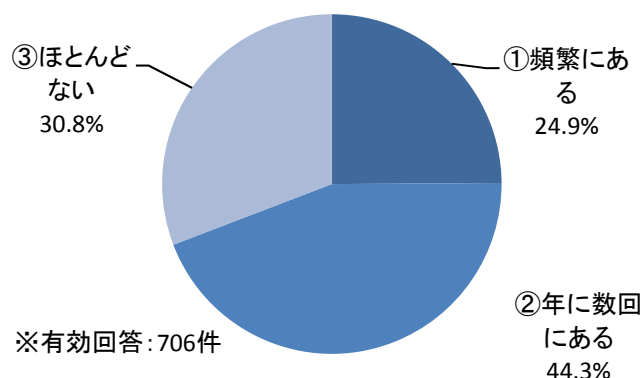
導入しない理由(複数回答)



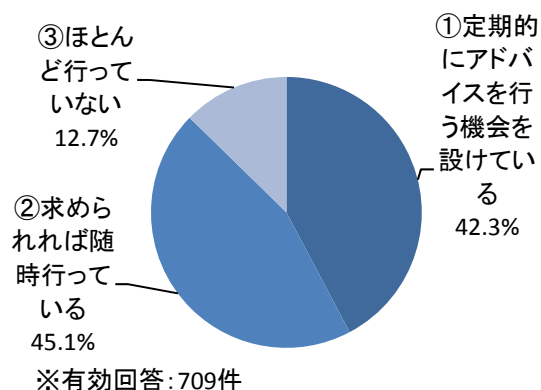
税理士・税理士法人、金融機関からの回答(中小企業からの経営相談、相談内容)

- 経営相談を受ける割合は、金融機関の5割に対し、税理士は7割と高い。
- アドバイスを定期的に行っている割合は、税理士が4割と金融機関の3割を上回っている。
- 相談内容は、双方ともに、収益向上、経営安定、返済能力改善の順になっている。

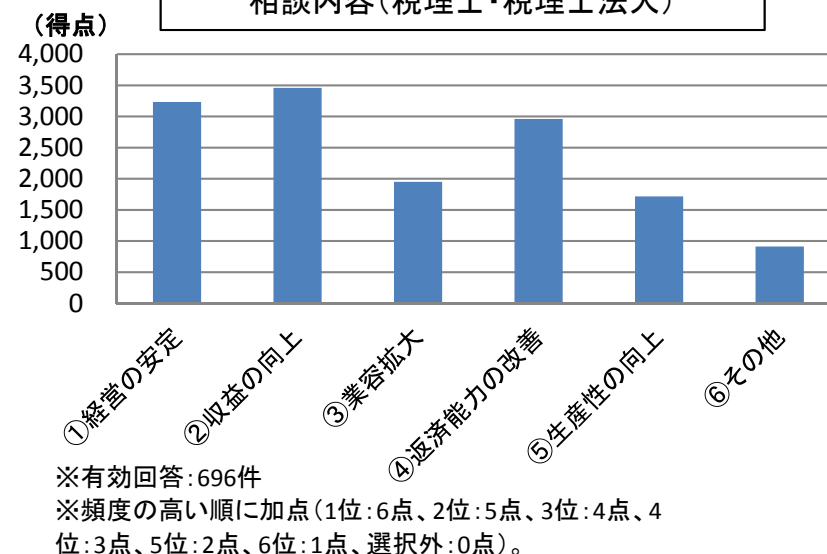
顧問先からの経営相談(税理士・税理士法人)



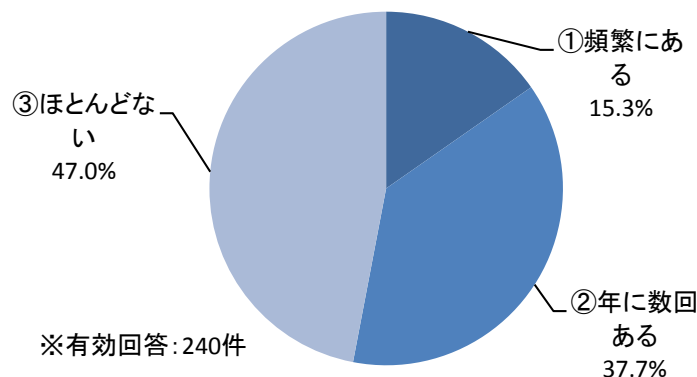
アドバイスの頻度(税理士・税理士法人)



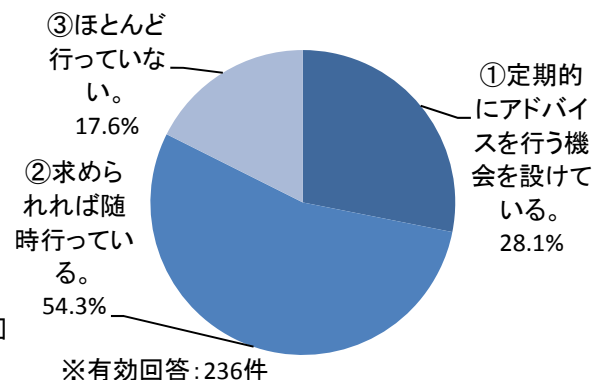
相談内容(税理士・税理士法人)



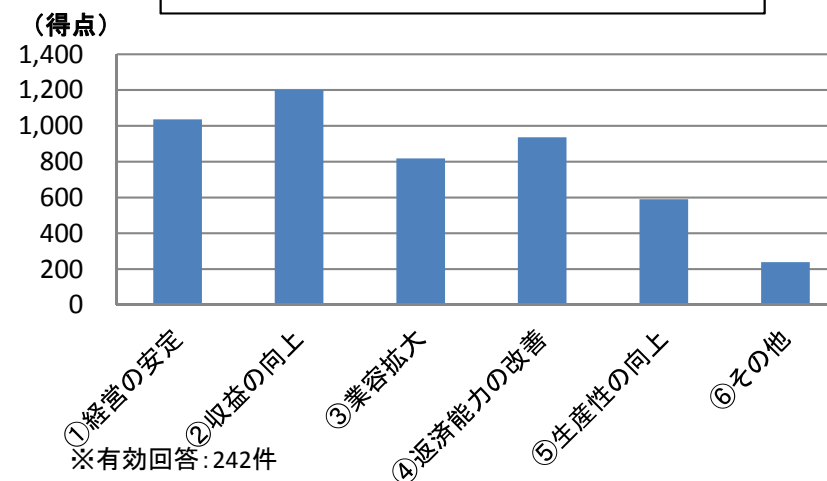
取引先からの経営相談(金融機関)



アドバイスの頻度(金融機関)



相談内容(金融機関)

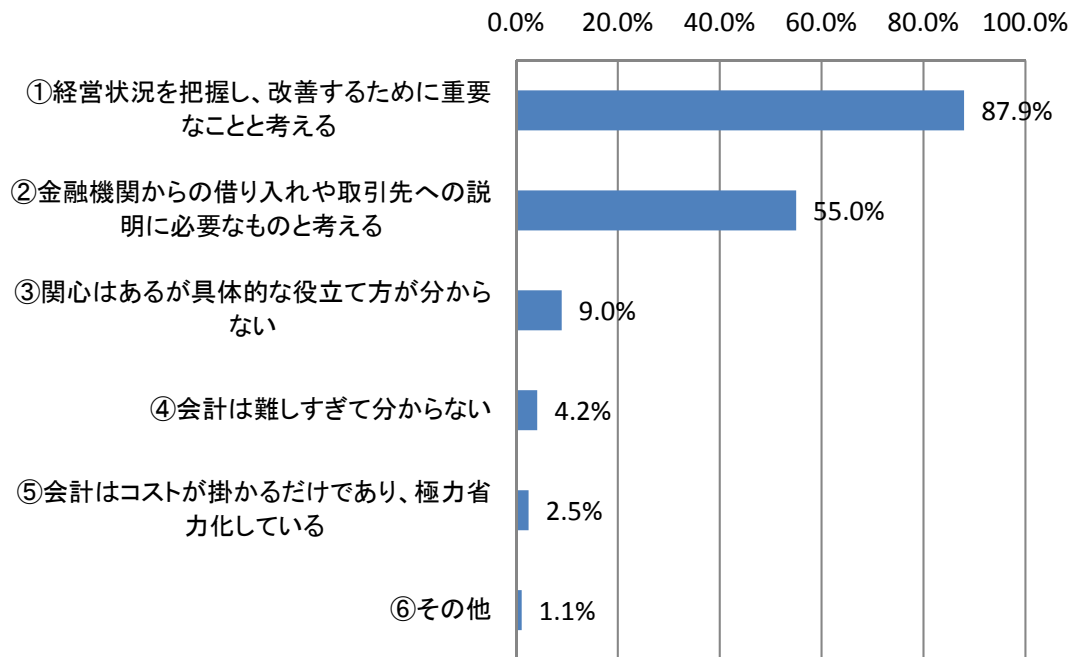


中小企業、金融機関からの回答(会計の経営への活用、企業の健全指標)

○会計を経営に活用することについては、9割の中小企業は「経営改善」のために重要と考えており、次いで、「金融機関、取引先に対する説明」に必要と考えている。

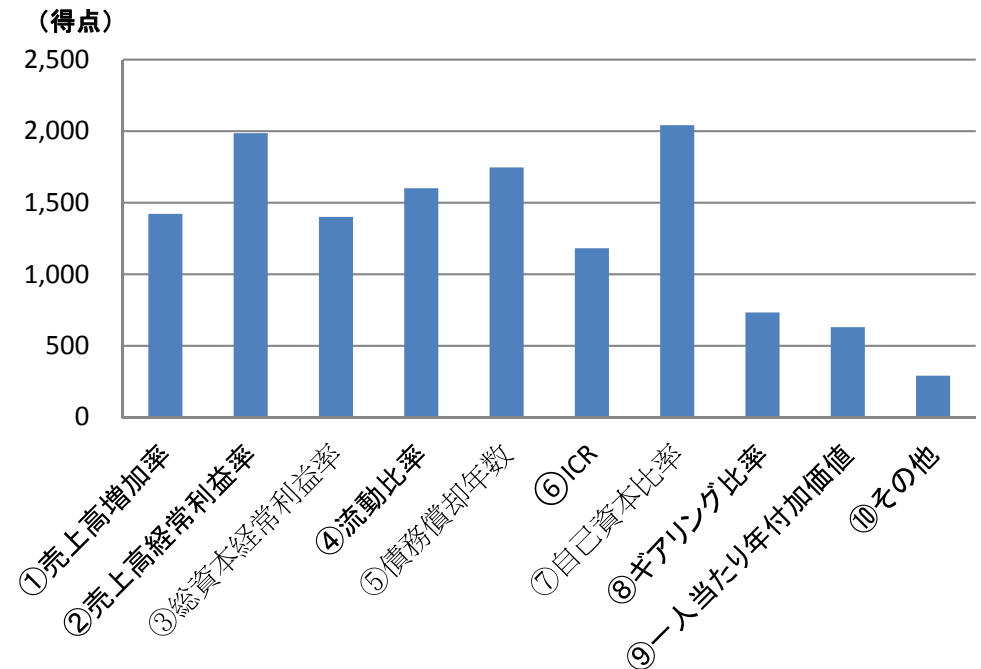
○金融機関が企業の健全性を判断する指標は、「自己資本比率(経営の安定性)」、「売上高経常利益率(収益性)」、「債務償還年数(返済能力)」、「流動性比率(返済能力)」の順となっている。

会計を経営に活用することについて(中小企業)複数回答



※有効回答:813件

「健全性」を判断する指標(金融機関)



※有効回答:242件

※順位に応じて加点(1位:10点、2位:9点、3位:8点、4位:7点、5位:6点、6位:5点、7位:4点、8位:3点、9位:2点、10位:1点、選択外:0点)